

セッション3：「情報家電産業の企業戦略－ソフトウェアプラットフォームの役割－」

コメントと高収益化へのイノベーション



株式会社JMR生活総合研究所

代表 松田久一

情報家電メーカーの業績(2004年度通期連結見通し)

株式会社JMR生活総合研究所

(億円)	2004年度通期見通し		2004年度通期見通し		
	売上	対前年成長率	経常利益(対前年)	見通修正	経常利益率
トヨタ自動車	183,000	106	12,000 ¹ (103)	↑	6.6
サムスン電子	57,632	132	10,787 (181)	→	18.7
10社合計	495,600	104	12,100 ² (102)		2.4
日立製作所	88,400	102	2,350 (99)	↓	2.7
松下電器	88,000	118	2,300 (135)	→	2.6
ソニー	71,500	95	1,400 (97)	↓	2.0
東芝	58,600	105	1,100 (76)	↓	1.9
日本電気	48,700	99	1,200 (75)	↓	2.5
富士通	48,000	101	950 (191)	↓	2.0
三菱電機	34,000	103	1,000 (118)	+ 50 ↑	2.9
三洋電機	25,800	103	400 (87)	→	1.6
シャープ	25,300	112	1,400 (125)	→	5.5
パイオニア	7,300	104	0 (0)	↓ 250	0.0

1トヨタは純利益見通し

2参考数値

出所:各社の2004年度決算概要、2004年度中間決算短信より作成

情報家電メーカーの低収益の要因

- 1 国内の激しい競争市場 - 独占・寡占市場を持っていない
- 2 流通の寡占パワーに対抗できない(大手10社で約60%)
- 3 ものづくり中心でソフトやコンテンツを取り込んだプラットフォームがない
- 4 外部を取り込むダイナミックなイノベーション力を持っていない
- 5 日本のソフトパワー(情報、コンテンツ、文化など)を生かしていない

ダイナミックなイノベーションシステムの競争優位へ - シャープ

株式会社JMR生活総合研究所

